

第2期大石田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

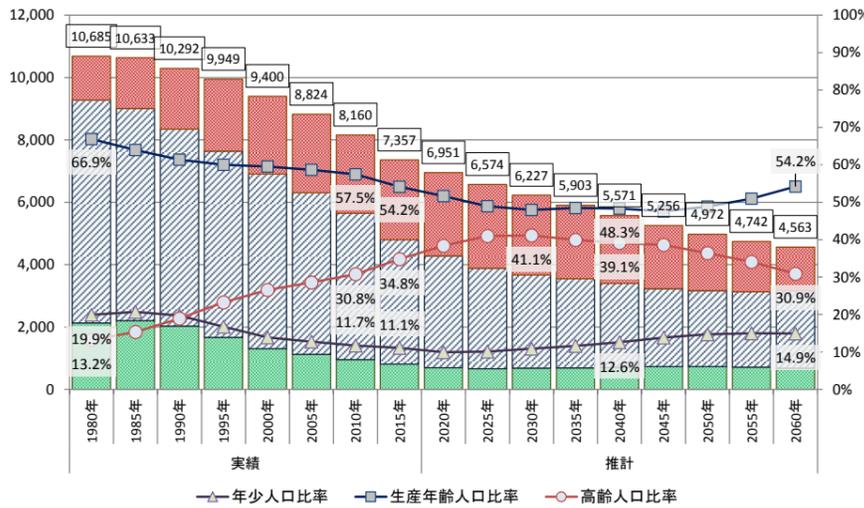
大石田町人口ビジョン（概要）

■大石田町の人口の将来展望（目標人口）

国立社会保障・人口問題研究所による大石田町の人口推計も踏まえ、令和2年度改訂版大石田町の人口ビジョンの対象期間は、2020年～2060年とします。人口の現状分析を踏まえ、目指すべき将来の方向性を検討するとともに、大石田町の人口の将来展望（目標人口）を提示します。

人口の将来展望（目標人口）は、2060年5,000人を目指します。

国の長期ビジョンと山形県の人口ビジョンを踏まえながら、国や県の施策との相乗効果、本町の様々な人口減少対策の継続により、若い世代の結婚を促進します。その結果、出産・子育ての希望が実現し合計特殊出生率が2030年に「1.8」、2040年に「2.07」へ上昇することを目標とします。また、社会減少は続くものの、積極的な移住や定住促進施策により2030年頃には均衡していく想定です。これらにより緩やかな人口減少と年齢構成のバランス維持により高齢化率も2030年に41.1%のピークを迎えたあと、令和42（2060）年に30.9%になると想定しています。



「大石田町総合戦略」の位置づけ

大石田町のまちづくりの指針である「大石田町総合振興計画」と一体となる戦略であり、大石田町総合振興計画に沿った形で策定し、戦略的に実行します。大石田町総合振興計画における施策の進行状況と総合戦略を調和させながら、効果的な実行を図ります。また、社会経済情勢や住民ニーズへの確かつ柔軟な対応ができるよう、PDCAサイクルによる効果を検証しながら、適正に反映させていくこととします。

大石田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度～令和7年度の5か年）（骨格）

大石田町の人口減少と地方創生に対応する施策を強化し、1つ1つを積み重ねながら、大石田町の付加価値をつけてゆき、人口減少と地方創生を継続させていきます。このため、以下の【4つの基本目標】を設定し、各施策を展開します。

地方創生を目指す『大石田丸』三本の樫

壺の樫
町外から「ひと」や「しごと」を届け、大石田の「技術（わざ）」や「特産品」を運び関係性も結ぶ仕組みづくり

式の樫
町の宝である子供を安心して生み育て、愛着をもって住み続けたいという暮らしの環境づくり

参の樫
若者や女性が主役となり、次代を担う元気を町づくり

町の「技術（わざ）（企業・産業力）」や「特産品」を全国に発信し、首都圏等から「しごと」や「ひと」を運び関係性を結ぶというストーリー性を踏まえて総合戦略の施策を考えております。



基本目標	具体的な施策	主な事業について	重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (R7)
1. 大石田町の特徴や資源などを活用し、安定した雇用を創出する [町内企業の付加価値額6,900百万円、農産物販売金額2,300百万円、年間観光入込客数55万人]	町内における起業への支援	空きキャパシティを活用した仕事づくりへの支援 特産品を活用した新たな商品開発への支援	町支援による新規起業数	2社 (R3~R7)
	町内企業・産業への支援	元気な農業支援事業 商店街等の魅力向上を目指した支援制度 企業力の価値向上に向けた支援制度 「地産外消」への取り組み推進	新規就農者数 町が支援した企業数	5人 (R3~R7) 10社
	希望する就業への支援	町内企業への地元採用の支援 就業に向けた資格取得等への支援 ワーケーション、テレワークなどの働き方や環境整備	町内企業の従業者数	2,290人
2. 移住、定住しやすい環境を整え、町内に住む新しい人の流れをつくる [転入者数-転出者数±0人、年間観光入込客数(再掲)55万人]	6次産業化の推進	「大石田ブランド」の確立に向けた取り組みの推進 市場ニーズとのマッチングによる売れる商品づくり 観光物産の一体的な推進組織の設立（大石田町版観光DMOの構築） 地域振興公社への支援強化 ふるさと納税制度及び企業版ふるさと納税制度の活用	6次産業化の取り組み事例数	2件
	町内への移住の推進	お試し移住環境の整備 移住に関するワンストップ窓口の創設（総合的な支援体制の確立） 地域おこし協力隊及び地域おこし企業人制度の活用促進 危険空き家等の解体促進に向けた支援制度 高齢者移住の受け入れ促進（大石田町版CCRCの構築）	転入者数	200人
3. 若い世代の希望をかなえ、町内に住む人の数を増やす [合計特殊出生率1.70、婚姻率(人口千対)4.0]	町内への定住の促進	住宅取得等への支援制度による定住の促進 同窓会支援制度等によるUターンのきっかけづくり 町外通勤への負担軽減に向けた支援制度 若者のUターン就職促進に向けた奨学金返還支援制度	転出者数	160人
	交流人口の拡大	町全体の情報発信力の強化と効果的なPR 町内における各種コンベンション開催への支援制度 外国人観光客（インバウンド）の受け入れ促進	町ホームページのPV数	900,000PV
4. 安全で安心感のある、これからの時代に合ったまちをつくる [町のことが好きだと感じている人の割合90%]	結婚・出産・子育ての切れ目のない支援	結婚支援及び出会いの場の支援 結婚新生活への支援強化 保育料の負担軽減 子育て環境の充実と支援制度の拡充 特定不妊治療費補助制度の拡充 義務教育に係る経済的負担の軽減 地域特性を活かした教育環境の充実 子育て支援におけるネットワークづくりの推進	婚活イベントの実施回数 保育所入所待機児童数	3回 0人
	「住んでよし訪れてよし」の環境づくり	生涯スポーツ・芸術文化環境の充実 最上川を中心とした体験型事業の推進 大石田町版「楽市楽座」（仮称）の開催等による多世代間交流の促進 次世代のリーダー育成に向けた支援体制の構築	町が支援した地域活動に取り込むグループ数 総合型スポーツクラブの会員数 町民交流センターの利用者数	20組 200人 50,000人
5. 安全で安心感のある、これからの時代に合ったまちをつくる [町のことが好きだと感じている人の割合90%]	広域連携の推進	友好協定を締結した「涌谷町」との連携強化 山形連携中枢都市圏による連携促進 県内自治体との連携強化による広域観光と県産特産品の利用促進	広域連携に係るプロジェクト数	50件
	郷土愛の増進	各地区公民館事業等への支援強化 町の活性化に関する団体・NPO等への育成、支援	各地区及び公民館活動への支援件数	40件 (R3~R7累計)
	社会基盤の整備	次の時代に合った社会基盤の整備と地域間交流の拡大	主要地方道大石田細線の交通量 一般国道347号の交通量	2,000台 7,000台
	総合的な雪対策の強化	除雪経費の負担軽減に向けた助成制度の創設 雪を活かした町おこしの推進 高齢者等へ配慮したきめ細やかな除雪対応 除雪をメインとしたボランティア組織の設立	雪を活用した取り組み件数 除雪ボランティアの登録者数	4件 50名
	防災体制の強化	消防団及び自主防災組織等の体制強化 情報提供（伝達）の強化による初動体制の整備	消防団員数 自主防災組織率	380人 100%
地元大学との連携強化	大学の専門的な知識や学生のエネルギーを活かした町の活性化	大学との連携事業数	3件	